

ONE LOVE 通信 39号

2008年9月28日発行

38号で父の訃報について書かせていただきましたところ、たくさんの人から励ましのお便りやメッセージを頂きました。本当にどうもありがとうございます。まだ思い出しては寂しさと闘っておりますが、少しずつ立ち直ってきました。みんなの暖かい言葉に元気付けられ、これからもがんばりたいと思います。ワンラブは不滅です！これからも応援よろしくをお願いします。



【相変わらず行ったり来たり】

今年は日本で過ごす時間がとても長かったけれど、そんな中、本当にガテラとスタッフたちは一生懸命ルワンダとブルンジを行ったり来たりしてくれました。

とにかくブルンジの仕事が忙しい！今までブルンジには義肢製作所がなかったためか、訪れる障害者の多いこと多いこと。オープンしてから既に100人以上の人に義肢装具を作りました。これは今までにないペース。そして義足を履いた人が、それを脱いでしまった時に必要になる杖もドンドン作らなくてははいけません。まだブルンジに義肢製作所を開く前、ルワンダの仕事が比較的少なかった時、鉄パイプを利用して杖を作りだめしておいたのが良かった！山のようにあった杖の在庫があつと言う間に少なくなっていました。

義足を作る際に必要な電気炉はルワンダにしか持っていないため、型を取ってはルワンダに持ち帰り、出来上があればブルンジに行き・・・の繰り返しでした。

ルワンダで働いているスタッフも、必要に迫られブルンジに行って作業を進め、終わるとルワンダへ帰る。確かに近い国ではあるけれど、荷物を持っての車での移動はかなり大変。国境の手続きのため、長蛇の列に並ぼうとするスタッフ。しかしいつしか顔なじみになってしまい、スタッフのパスポートを預かり、裏で手続きをしてくれる国境の係員(別に裏で取引をしているわけではありません・・・)。

道中、特に面白いことがあるわけではありません。でもみんな大声で話しながら時間は過ぎていきます。途中必ず寄るところはプロシエト屋さん。これは串焼きのお肉を売っているお店です。格安の値段で美味しい串焼肉が食べられます。安いので、いつぞやかガテラは一人で10本注文。しかし結局食べ切れなくて、残りを私が美味しく頂きました。そこでは飲むヨーグルトも売っている。日本でも飲むヨーグルトはありますが、それよりもずっと濃厚。ドロツとしています。ある日本女性はそのヨーグルトを飲み「けもの臭い」と表現した。当てはまっているかもしれない。



しかしこれを飲みつけると、日本の飲むヨーグルトがべらぼうに貧弱に感じる。もっとも濃厚すぎておなかを壊す人もいます。私も以前がぶ飲みして、道中大変な目にあいました。そしてもう一箇所寄るところは八百屋さん。と言ってもお店を構えているわけではありません。突然道の一角が籠に入った野菜に埋め尽くされます。そこで売っているのは玉ねぎ・にんじん・トマト・さやいんげん・カリフラワー・ピーマンなどなどの色とりどりの野菜。籠の中に花束のようにきれいに活けられ売られています。ここでいつもブルンジ事務所の警備をしていておじいちゃんたちに野菜を買ってプレゼントします。しかし大量売りなので、もちろん自分たちの野菜もその中から確保します。ガテラは必ず、おいしそうなにんじんにかじりつきます。しかし彼は以前言ったぞ。「道端で売っている野菜は、どこで洗っているのかわからない。汚い水で洗っているかもしれないから、きちんと洗ってから食べるように」と。私が同じことをすると怒るくせに、自分は構わないらしい。



<プロシエトを売っているところ。
日本の焼き鳥を大きくした様なイメージ>

ブルンジでの義足作りは暑さとの戦いである。日本の夏のようなのである。ルワンダは山が多く避暑地のような気候。アフリカは暑いでしょ？とよく言われるが、それは間違いである。暑いところもあるが、ルワンダは快適だ。木陰に入るとすっと汗が引く。しかし！ブルンジは暑い！ルワンダではおしゃれなシャツを着て作業を進めているエマーブルも、ブルンジではランニング姿。他のスタッフもランニングで、これでは色男も台無しである。



<白いランニングシャツになって、作業中。
写真の二人も、ルワンダではシャツ派なのに…>

でもね、格好なんか気にしてられないのですよ。女の人はきれいにお化粧をしているけれど、汗で流れ落ちてしまわないのだろうか？日本のように汗に強いお化粧品が売られているとも、あまり思えないし。

一生懸命作った義足をブルンジの人はとても喜んでくれている。みんな汗だくで歩く練習をしている。そして納得がいくまで具合の悪いところを直してもらっている。太陽は頭の真上。足元の自分の影がなくなってしまうても練習をしている。朝早くから来て、夕方義肢製作所が閉まるまで時間をつぶしている人もいる。暇な人たちだなぁと思いつつも、こうして人が集まってきてくれるのは嬉しい限りである。



<ブルンジに集まった、障害者たち。
義足・車椅子・装具…。仕事はたくさんある！>

だんだんと軌道に乗ってきたブルンジの仕事。これでルワンダの仕事も一気に入ってきたらってご舞い。ルワンダの仕事は今ゆっくりペース。これでちょうど良いのかも知れない。両方とも忙しくなったら、きっとまたスタッフに給料アップの要求をされてしまうに違いない。それはそれでとても恐ろしいことである。だから、これでいいのだ。

私ルダシングワ真美は、この号が出る頃、しばらく留守にしてしまったルワンダに戻ります。久しぶりのルワンダ、とても楽しみです。年内にはもう一度ガテラと一緒に日本に帰ってくる予定です。その時には活動報告会やイベントなども計画しておりますので、よろしくお祈りします。行ってきま～す！

【ペシャワール会の伊藤さん】

8月にペシャワール会の伊藤和也さんが殺されてしまいました。伊藤さんとは面識もなく、ニュースによって存在を知った方ですが、とても残念に感じました。私ルダシングワ真美も同じように日本の外で活動をしている身として、彼の死に対して思いを書かせてください。

亡くなった伊藤さんはとても無念だったと思います。志半ばにして、命を奪われてしまいました。94年に大虐殺のあったルワンダで、私ももしかしたら同じような人生を歩むかもしれない、いつも思っています。もちろんそんなことがないことを祈りますが、こればかりはわかりません。そうなった時に、私は何を思うだろうか？もしも虐殺がまた起きてしまったとき、私はどのような行動を取るだろうか？ガテラは言います。もしルワンダの情勢が悪くな

ったら、まず私が先に逃げなさいと。でもできるだろうか？自分が殺されることを目の前にしたら、私は最愛のガテラを置いて、一人逃げるのだろうか？それとも一緒に残るのだろうか？

伊藤さんは自分の思いを貫くため、きっと一生懸命アフガニスタンで働いていたと思います。少しでも状況が良くなるようにと願いながら、汗を流していたことと思います。

NGOで活動をしていると「偉いわね」と言われることが良くあります。でもちょっと違うような気がします。世界中にたくさんの方がNGOで働いています。一人一人に様々な思いがあると思うけれど、きっと多くの方は自分が何者であるか、自分は何かができるかと言うことを日々悩みながらやっていると思います。伊藤さんも自分でできることを精一杯やってきたのではないのでしょうか？

でも時としてその思いは人に伝わらないことがあります。足を運んだその地の方が全て受け入れてくれているわけではない、そういう事実と直面します。



今号の患者さん

ワンラブにはみんなそれぞれの人生を抱えながら、いろいろな患者さんがやってくる。

ルベンゲリ地方で巡回診療を行っている時、ある人たちがやってきた。ピンクの服を着た人たちである。ルワンダで囚人はピンクの上下を着させられ、町や病院の清掃や、建築作業に連れ出されることがある。その日は巡回診療を行っていた病院の近くにある刑務所から、7人ほどの囚人がやってきた。

彼らも足を失っていたり、障害を持っていたりした。巡回診療を行っているということを聞きつけ、看守に付き添われながらやってきた。この人たちはどんな罪を犯したのだろうか？その当時、刑務所にいる多くの囚人は94年の虐殺に加担した人たちだった。彼らもそうなのだろうか？

戸惑っている私を見て、ガテラは言った。「殺人を犯した人であろうと、障害を持っていることには変わりはない。彼らの罪は法が決める。自分たちの仕事は義足を作ることだ」と。



義足を作りに来た囚人達。ピンクの服が囚人が着る服。

日本から来た人は、この派手な服の色に驚く事が多い。

私たちもルワンダとブルンジで活動をし、良かれと思って動いています。でもその中には嫉妬・ねたみ・そねみもあります。これはNGOに限らず企業でもあることだし、アフガニスタンやルワンダ・ブルンジに限らず、世界中、もちろん日本でもあることです。

私たちの場合、ルワンダ政府から大きな土地ワンラブ・ランドをいただき、今日まで活動を続けてきましたが、広い場所のためどうしても目立ってしまいます。だから他の人からの羨望もあります。出る杭は打たれると言う諺のように、足を引っ張られてしまうこともあります。

そんな中で活動をしていると、もっと人間の根本にある嫉妬と言う感情を正しくコントロールのできる世界を作っていくことが大切なのではないかと言うことを感じます。生きている限り嫉妬を取り除くことはできません。でもその嫉妬のベクトルを、人を殺すとか、足を引っ張るとか、そういう方向に向けるのではなく、如何に共存していくかと言う方向に向けていくべきなのではないのでしょうか？

一人一人がそんな思いを持てば、争いのない平和な世界になると信じています。とても単純な事だけど、実行するのが一番難しい。何年かかっても良いから、そんな人間になりたいと願う私です。そしてワンラブの願いでもあります。

どうしたら、そんな「許す」気持ちを持つことができるのだろうか？戸惑いながらも、次から次へとやってくる患者さんとその囚人の対応に追われた。対応するスタッフの中には、虐殺で家族や友人を殺された人もいる。そんな彼らも黙々と作業を続ける。どんな思いで作業をしているのだろうか？

終わってからガテラに尋ねた。「何故、彼らにも義足を？」「過去にこだわり続けるのではなく、前を向くためには彼らを受け入れ、一緒に生きていかなければいけない。ルワンダ人として」彼らのように辛い経験をしてこなかった私には、なかなか理解ができなかった。でもルワンダ人自身がそう思っているのであれば、私はその思いを受け入れたい。こんなふうにするルワンダ人たちと一緒に仕事ができ幸せだ。ルワンダの平和は、そう遠くない未来に訪れるかもしれない。

義足や杖を受け取り、刑務所に戻らなくてはならない囚人たち。しかし夕方薄暗くなり、彼らが帰る車がなく、自分

の車に囚人と看守を鮪詰め状態で乗せ、何故か刑務所まで送る私。こんなことはなかなか日本では経験できない。カラシニコフ自動小銃AK47を持った看守にも親しげに話しかけている。だけど乗せる相手が誰であれ、できれば自分たちで帰る手段は見つけておいてほしいなあ。お昼抜きで作業したからおなかはペコペコ。そして私たちも早く家路につきたいものの・・・。





紹介します！ワンラブのスタッフ

今回のスタッフは、ルワンダの義肢製作所で受け付けをしてきているテレザです。

彼女の仕事は義肢製作所に来た人たちの受け付け兼ソーシャルワーカー。ポリオで足が不自由です。彼女の机の前に用意された長いすには、いつもたくさんの人が座っています。スワヒリ語があまり得意でないため、私との会話には苦労します。それでも一生懸命つたないスワヒリ語をしゃべってくれます。

訪れる人たちは十人十色。義足を求めてやってくる人もいれば、仕事を探している人、スタッフがつけをしてしまったレストランの女将さん、仕事の問題を訴えてくるスタッフ。そんなみんなの話を聞く係です。義足を求めてやってきた患者さんには、名前・住所・職業などのデータを聞き取り、一枚の紙にまとめます。そして最終的には義肢装具士に見てもらって、製作に入ります。

▲青い服の女性がテレザ、
沢山の人が、この受付にやっ
てきます。v



これについては経験も充分にあり、そつなくこなしていきます。でも問題はその他の人たち。時間が有り余っているのか、朝から来て一通りの話をし、そのまま居座っている人。彼女も無下に「帰れ」とは言えないため、仕事でも目の前に座られ、邪魔をされる。これは困ったものです。それからスタッフ同士の喧嘩の仲裁。毎日必ず誰かが誰かと喧嘩し、口々に文句を言いに来ます。時々スタッフの奥さんがなだれ込んで来て、給料を家に入れないと訴えてきます。情けなくなってきました。しかしねえ、そこまで私たちは首を突っ込まなくてはいけないのか……。テレザも困りながらも、奥さんの味方をします。テレザもそんな経験があったのでしょうか。

一度私と彼女も喧嘩をしました。それはあまりにも彼女の机の引き出しが汚いから。大切な書類をきちんとファイルせず、後回しにする。その書類が必要な時に見つからず、テレザの引き出しを開けてびっくり！いやまあ、私も片付けは上手ではないけれど、これで良く管理ができてい

というもの。怒った私はテレザの机の中身をぶちまけてしまいました。元はと言うと、私もその日は機嫌が悪く、八つ当たりみたいな感じでした。私の怒りに一生懸命謝るテレザ。それを見て、ますます頭が沸騰してしまった私。最後にはテレザが泣き出してしまいました。

ごめん、私も言い過ぎた。私より年上の人を泣かせてしまったと言うひどい後悔。テレザだって一生懸命やっていたはずなのに。

そんなテレザの机の中は、あの時とまったく変わっていません……。嗚呼。

ルワンダ事務所代表ガテラより

いやはや忙しい。何が忙しいかって、全てが忙しい。いつも書くことだが、一つ問題が解決すると、すぐ新たな問題が待ち構えている。日本の人たちの協力により、地震と洪水で壊れてしまった建物は、何とか修理をすることができた。これについては一安心である。本当にどうもありがとうございます。しかしスタッフが犬にかまれたとか、夜歩いていたら何もしていないのに警察に捕まり、保釈の手続きをするとか（スタッフが……。ですよ）、大変である。

みんなのおかげでブルンジの仕事も順調に進み、非常にありがたいことである。最初スタッフはルワンダとブルンジの両方の仕事で戸惑っていたが、段々と手順もわかり、最近では自主的に動くようになってきた。

私も自分のペースを取り戻すべく、仕事の合間にはジムに通い、汗を流すようにしている。無になれる時間である。

問題だったのは、真美不在の時の食事の支度だ。たまには自分で作ることもあるが、なかなかその時間がない。それを見かねて、家の掃除してくれるおばさん（注：ワンラブ通信35号に載っているママ・ジャンティ）が時々食事を作ってくれる。

しかし、ああ、しかしである。疲れた身体を引きずって家に帰ると、せっかく作ってくれた食事を猫に食べられてしまった……。目の前に広がるのは、あたり一面にまき散らかされたシチュー。これをこれから掃除しなくてはいけないのか……。もうやけくそである。

ワンラブに大量にいる猫たちを呼んで、床のシチューを舐させる。本格的な掃除は、明日ママ・ジャンティにやってもらおう……。そして今日も空腹のまま床につく。おいしいような鶏肉のシチューだったのに……。

ワンラブにはたくさんの動物がいる。犬・猫・オウムなど。昔は猿や牛も飼っていた。心を癒されるのは動物たちと話をしている時である。どんなに疲れていても、牛の世話をしている時は心安らかになれた。子供の頃は家で飼っていた牛に草を食べさせるため、毎日朝晩野原に連れて行った。破れている部分の方が多い洋服を着て、放牧をしている時はとても楽しかったが、途中で雨が降ってくるとその寒さが身にしみた。その牛が死んでしまった時は、とても辛かった。そう言えば昔々この仕事を始める前、ニワトリも飼っていた。そのニワトリはいつも私のあとをついてきて、肩に乗って雄叫びをあげていたっけ。

そんな昔の思い出が頭の中に浮かんでくる。私も年を取ったなあ





ルワンダ・ブルンジ あれこれ!

この二つの国には新鮮な食材を使った美味しい食べ物がたくさんあります。今日はそんな食べ物の情報を。

日本人のお米にあたる主食、それがウガリと呼ばれるものです。キャッサバ芋を粉にして熱湯に入れてこねる。それだけ。ちょっとペタペタした舌触り。国によってはトウモロコシの粉を使います。ルワンダ・ブルンジの人はこれが大好き。このウガリにトマトベースのスープをつけていただきます。スープの中身は鶏肉・牛肉・魚など。アフリカの料理は辛いと思っている方もいるかと思いますが、ルワンダ・ブルンジでは料理そのものは余り辛くしません。その代わりウルセーダと呼ばれる唐辛子で辛味を、お好みに応じて加えます。これが辛いっ！半端じゃありません。知らずにスープに入れてしまうと、二度と口に運ぶことができません。最近ではそのウルセーダオイル（ラー油みたいなもの）を売っていて、なかなか好評。

ウガリをこねているところ。足にサフリア（鍋）を挟み、器用にこねる。結構重労働。

出来上がったウガリと、トマトのシチュー。おいしいですよ！



ニワトリは大体生きたまま買います。スーパーでは羽をむしられたニワトリが一羽丸ごと売られています。始めの頃鶏をさばいたことがなかったので四苦八苦しただけれど、今ではお手の物。でも未だにニワトリを絞めることはできません。ルワンダ・ブルンジでは家のことや料理をしてくれる人を使っていることもしばしばありますが、鶏を料理する時に砂肝をご主人に必ず進呈します。うっかり（と言うか欲望に負けて）砂肝を料理人が食べてしまおうものなら、その人はクビにされても文句は言えません。それだけ美味しくて大事と言うことですね。

それからみんなが好きなのはイビシンボと呼ばれる豆を煮たもの。あちらでは豆は決して甘く煮ません。一度日本の黒豆や小豆を食べさせてみたいけど、多分抵抗するだろうなあ。

その他食卓にはジャガイモ・サツマイモ・バナナ。このバナナは甘いバナナではなく、料理に使うバナナ。煮たり

焼いたり蒸かししたり。ジャガイモの感じに似ています。ちょっと日本に馴染みがないものとしては、キャッサバの葉っぱを青海苔くらいのサイズに細かくして、コトコト煮込んだソンベと呼ばれる食べ物。少し苦味があり、お茶っ葉のよう。これを食べた後はみんな葉にソンベがくっついていきます。

雨季を前に出てくるのがキノコ。ワンラブの庭にも直径20センチはあるかと言うキノコが生えてきます。それからめったに出て来ないエノキに似たキノコ。いつだか庭のお手入れをしてきているおばちゃんたちが、黙ってこのキノコを持って行ってしまいました。セキュリティーの密告でそれを知る私たち。大人気なく激怒するガテラ。それ以来、そのキノコが出てくると、庭師のおばちゃんは静々とキノコをガテラに献上するのであります。

更にブルンジには湖があるので、魚料理が豊富です。タンガニーカ湖で獲れた魚が大好き。でもルワンダは余り魚料理はありません。ある日市場で見かけたとぐる巻きの黒い物体。近づいてみると、それは乾かした魚を巻いたもの。食べてみると美味しいということですが、まだ一度も食べたことはありません。

ルワンダ・ブルンジでお父さんたちは仕事の後に（昼間から飲んでる人もいるけれど）何を飲むか？大体ビールです。Primus や Mützig と呼ばれるビールはコクがあって美味。また人によっては黒ビールをコーラで割って飲んだりしています。大体ビールだけをグビグビするのですが、時によってはプロシエット（牛・ヤギなどの肉の串焼き）とフライドポテトと一緒に食べます。それからヤギなどの臓物をぐるぐる巻いて串焼きにしたジンガロ。しかし私は一度それにあたり、激しい嘔吐に苦しみました。

ローカルなお酒として、穀物やバナナを使って作ったルワグワやキガジも好んで飲まれます。結婚式やお祭りの時、お神酒のような感じで飲んだりします。そして飲んだ後は世界中の酔っ払いがそうするように、歌って踊って騒いで喧嘩して・・・。

あげていったら切りがないけれど、果物も見逃せません。マンゴー・パパイヤ・バナナ。どれも日本で買うよりずっと安く糖度が高い。しかもでっかい！またアボガドもねっとりしていて絶品。ちなみにワンラブで飼っている猫たちは、このアボガドが大好き。みんな、唸りながら取り合いをします。

まったくもって美味しいものオンパレード。それを食べるだけでも価値があります。どうです？魅力的でしょ？



↑町にあるビールの看板。看板の「Mützig」>



日本事務所より

【事務所移転しました】

8月末、事務所の移転を行いました。といっても以前の場所より、自転車で10分程度のところ。少し駅に近くなり、便利になりました。必要なものは、整理整頓、不必要なものは思い切って処分した結果、自分達でも驚くほどにすっきり、使いやすいスペースになりました。そうなると、お洒落心が出てくるもの。アフリカで購入した布で、棚の目隠しをしてみたり、楽しんでます。しかし、重要なのはこの状態を保ち続けること。うーん。それが一番難しい。

<新住所>

〒253-0051

神奈川県茅ヶ崎市若松町12-8 コーポ原202

電話&FAX: 0467-86-2072

電話番号は以前と変わらず。

FAX番号は変更になっています。

【日本でのイベント参加のお知らせ】

下記のイベントに参加します。ガテラ・真美はルワンダ滞在中のため、当日参加できませんが、日本のみなさんと力を合わせ出展します。お近くの方、是非お出かけください。お待ちしております!!

グローバルフェスタ JAPAN2008

10月4日(土曜日)・5日(日曜日)

時間: 10:00~17:00

場所: 日比谷公園(入場無料)

ワンラブはブースにて展示・民芸品等の販売を予定。

公式HP

<http://www.gfj2008.com/>

日本最大級の国際協力のお祭りです。1990年から毎年開催され、今回が18回目。飲食ブースも充実、大人から子供まで楽しめます。両日ともに通う人も!お勤めのイベントです。

横浜国際フェスティバル2008

10月25日(土曜日)・26日(日曜日)

時間: 10:30~17:00

場所: パシフィコ横浜・展示Bホール(入場無料)

パネル展示・ルワンダ製品・ワンラブグッズ販売

公式HP

<http://yokohama-festa.org>

MOTTAINAIフリーマーケット2008も同時開催されます。

書き損じハガキ、テレホンカードは下記、茅ヶ崎事務所までお送りください。ご寄付は下記の口座まで、みなさまのご支援お待ちしております。

事務の簡素化と経費節約のため、領収書は省略させて頂いています。

必要な場合は、振込用紙の通信欄に「要領収書」とご記入ください。

〒253-0051 茅ヶ崎市若松町12-8 コーポ原202 :080-6564-4448 FAX:0467-86-2072

e-mail: info@onelove-project.info(日本事務所) onelove@rwanda1.com(ルワンダ事務所)

郵便振替口座: 00210-5-66497

ムリンディ/ジャパン・ワンラブ・プロジェクト

【CARE-WAVEの寄付先に決まりました】

CARE-WAVE 実行委員会は、オリジナルミュージカルなどの舞台芸術上演を通じ、その全収益金を、毎回選んだ複数のNGOに寄付する試みを行っています。代表を務めるのは、劇団四季で13年間、数々の舞台に出演され、現在は振付家の鎌田真由美さん。今回の作品は、『アフリカの神秘と尊厳にフォーカスしながら現在のアフリカの惨状をノンフィクション・ミュージカルとして表現し、皆さんと共に考えていく』作品となっているそうです。当日会場では、寄付先に選ばれたワンラブを含む12団体が活動の様子展示や、物品販売を行います。毎回大きな反響を呼んでいるCARE-WAVEの舞台。是非皆さんもご覧下さい。

「CARE-WAVE AID」VOL.3

- 選ばれた大地アフリカ (仮) -

11月14日(金曜日)

開演時間: 13:00~ 18:00~

料金: S席8000円

A席6000円

B席3000円

13:00からの公演は学生無料

場所: 新宿文化センター大ホール

公式HP

<http://cgi.geocities.jp/carewavejapan/third/index.php>

【チケット販売方法】-10月14日から販売開始-

開演時間・座席・枚数を決定の上、

下記、ワンラブ日本事務所まで、電話又はメールにてご連絡ください。

電話:080-6564-4448

メール: info@onelove-project.info

ワンラブ経由以外の販売方法は、

上記公式HPに掲載されています。

【感想お待ちしております。】

ワンラブ通信の感想・要望・ルワンダ・ブルンジのこんな事が知りたい!などありましたら、メール・お手紙・振込用紙の通信欄などで教えてください。

今後の参考にさせていただきます。よろしくお祈りします!

【おことわり】

* 発送作業の都合上、振込用紙を必ず同封させて頂いておりますが、すべての方に寄付金・会費を催促するものではありません。

* 当団体はご提供いただいた個人情報について、皆さまからご同意頂いた場合や、正当な理由がある場合を除き、第三者に公開、提供することはございません。

ワンラブ通信 39号 2008年9月

発行: ムリンディ/ジャパン・ワンラブ・プロジェクト

<http://www.onelove-project.info>

